

平成22年度 自己評価書・学校関係者評価書

鈴鹿市立平田野中学校		NO. 1				
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
学力保障	授業改革 授業研究	<ul style="list-style-type: none"> 二極化の解消にむけて、授業研究を進める 年3回の授業研究と全職員の授業見学に取り組む シラバスを生徒に配布し、学習への取り組み方を説明する 必達目標を設定し、生徒の到達度を検証したり、CRTを分析したりして授業改善に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が授業研究を行った。多くの教職員が授業見学できた 教科部会を年に5回持ち研修することができた CRTの結果を授業改善に活かした シラバスを全生徒に配布した 	<ul style="list-style-type: none"> CRTで全国平均を超えてきた 中間層が学力を伸ばしたが、低学力の生徒に対する取り組みが課題である 	<ul style="list-style-type: none"> CRTの結果を分析して授業改善に取り組むことは必要なことであり、今後も継続していくべきである 学力向上の兆しが見えてきたことは大変よいことであり、さらに努力してもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き授業改善に取り組む 学力調査の分析を早急に行い、さらに授業に生かす 学校、学年、教科で具体的な取り組みを統一して実践していく
	少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも少人数学級編成に取り組む 全学年数学科においてT・T授業を実施する 取り出し授業により、困り感のある生徒、低学力生徒等の学習を保障する 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で少人数学級編成ができた 低学力生徒の学習保障は放課後の補充学習で行っている 数学で3年週2時間、1、2年は週1時間T・Tを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に目が届くようになり、ていねいな指導ができた 数学が苦手な生徒の基礎の定着に取り組めた 	<ul style="list-style-type: none"> 指導による結果としての具体的な生徒の姿が捉えられるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科でT・Tをするとよいが、そのための人的配置が必要である 数学以外の教科での少人数指導が可能かどうか模索する必要がある
	学習ボランティア活用	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習生に協力を要請する 校区内の小学校の先生の協力を仰ぐ 夢工房の講師を活用する 車椅子体験、いのちの出前講座など福祉体験学習を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生数学の学習支援(毎月第2第4木曜日放課後)ができた いのちの出前講座が計画通りできた 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの方が体調を崩して休止している 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの確保に努力してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアを再度募集して再開を目指す 小中連携を充実させる必要がある
	補充学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援が必要な生徒のために、定期テスト前に補充学習を実施する 「ひらたの〜と」を使って、家庭学習の習慣化に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト前2日間放課後実施した。3年生は2学期以降火、木の放課後実施した 低学力の生徒に放課後随時実施した 「ひらたの〜と」の定着度は65%である 	<ul style="list-style-type: none"> 細やかにサポートすることができた 部活動との兼ね合いが課題である 家庭学習の習慣が身につけていない生徒が30%を超える 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習は、下校後についての指導が生徒、保護者ともに必要ではないか 家庭学習の大切さを、さらに、生徒、保護者に啓発していく 	<ul style="list-style-type: none"> 補充学習に参加しない生徒に対する指導を考える 家庭学習の習慣化に向けた取り組みがさらに必要である
	キャリア教育 (すずか夢工房・職業体験学習)	<ul style="list-style-type: none"> 高校の先生による出前授業を年3回実施する 「ようこそ先輩」事業を実施する 職業体験学習を実施し、職業選択に役立てる 組織的、体系的な進路学習を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に進めることができ、内容も充実していた 職業体験学習では、42社の協力を得ることができた 	<ul style="list-style-type: none"> 行事やその事前事後学習で生徒が自主的に目標を持ち、「生き方」につながる進路学習に取り組むことができた。中には受け身でなかなか意識の深まらない生徒もいて、個別対応の必要があった 職業体験学習では、事業所の新規開拓など多様性を持たせようとしたことで、生徒の得るものも多いが、職員のそれぞれへの対応が複雑になったり、生徒の希望通りの職種が体験できないときの意欲付け等に課題がある 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を持って取り組む活動をひとつでも多く設けることが必要であり、それが生徒の自主性を育む 高校の先生による出前授業は特に子ども達にとっては大変意味のあることだと思うので是非今後も続けていってもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> 組織的体系的な進路学習ができたので、今後も継続して進めるとともに内容を精選していきたい 職業体験学習をさらに発展させ、自分に合う職業を見つけさせたい
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援の推進を図る 支援システムの構築 きめ細かい情報交換と指導内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 支援学級籍生徒の個別支援は少人数での支援ができた 通常学級籍の生徒の支援について、部会での情報交換ができた 	<ul style="list-style-type: none"> 支援レベル1の生徒への支援は教科指導の中で支援できたがレベル2の生徒についてはできなかった 支援学級籍の生徒については職員間で情報交換を行い共通理解することができた 定期的に部会が持てなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 支援学級籍の生徒を普通学級に参加させることで、周囲の生徒たちにその生徒を支えようとする意識が生まれる さらなる充実を望む 	<ul style="list-style-type: none"> 支援部会を定期的で開催し、支援システムを確立する 地域、関係機関も含めた支援会議を実施する 特別支援を必要とする生徒への対応を計画的に行う 特別支援教育の地域への啓発 	
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 各学年別指導計画を作成し、実践する 仲間づくりと人権作文(文化祭での人権作文発表) 人権学習(出会い学習や参加型体験学習を取り入れる) 人権メッセージ 人権アンケート 指導資料の収集及び整理を行う 教職員に対して、人権教育関係の各種研修会への参加を呼びかけ、教職員研修を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね計画通り活動できた 人権メッセージは各学年とも3学期に実施予定 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、1学期、2学期と改善傾向にある。落ち着きのある生徒の姿が増えてきている 人権アンケートから自分の思いの表現や、人の思いの受け止めが、昨年度と比べて低くなっており、より一層の工夫が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとり感じ方や考え方が違うということを受けとめることも人権教育の在り方のひとつである いじめを見逃さないように最善の注意をお願いする 自分の人権を守るとともに、他人の人権を守ることの大切さをさらに教えてやってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 人権アンケートを行い、生徒の意識や効果的な授業を把握し、来年度へ引き継ぐ 集会等で機会あるごとに人権の話をし、啓蒙していく 	
多文化共生教育	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な部会の開催(月別行事予定に月一回の会議の日を入れる) 情報交換により、個別対応内容を検討する 平田野中学校校区内小学校との定期的な情報交換会を開催(年数回程度)する 外国籍生徒と保護者対象の進路ガイダンスを実施する 長期休業中に補充学習を実施する 取り出し授業による日本語指導の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 会議を定期的で開催するのは時間的に難しかった 担当者同士の情報交換や個別支援の対応は前進した(放課後の補充学習や長期休業中の学習) 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職もそろっての会議の時間が取りにくいので、時間割の中に部会を組み込むことはできないだろうか 学校体制での取り組みに欠ける部分がある 各学年役割分担がされているので情報交換をしながら支援の相談ができた 支援員との連絡調整がうまくできないときがあった 	<ul style="list-style-type: none"> 学校体制で取り組めるよう努力してほしい 外国籍生徒の学力保障に向けた取り組みをさらにお願したい 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の担当者会議の時間確保なら可能ではないか 支援の目標を明確にし、見通しを立てる 日本語能力判定会議を全校体制で実施する 学期に1回の支援担当者会議を開催する 組織的な対応を目指す 	

平成22年度 自己評価書・学校関係者評価書

鈴鹿市立平田野中学校		NO. 2			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ、返事や正しい言葉づかいの指導 あいさつ運動の推進と全校、学年集会等での指導 規範意識が育つ指導 学活、道徳等での指導 喫煙、万引き等に関する非行防止教室の開催(事故報告件数15件以内) 時間を守る指導 全職員による毎朝の登校指導(朝の遅刻を各学年3人以内) 職員の授業時間(開始・終了)の徹底 チャイム着席の徹底(授業遅刻生徒0人) 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動の推進により、あいさつを自らする生徒が増えてきた 事故報告件数が1月末で昨年度を越えた 時間を守る意識が低くなってきた 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方からもあいさつができる生徒が多くなったとの話があった 事故報告件数は増えたが内容的に見ると学校は落ち着いてきている 年度当初は生徒も職員も意識していたが、徐々に意識が低くなってきている 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動の推進の成果が良い方向に出ていると思われるが、習慣性もあり、反復することが必要である。今後も継続してほしい 登下校時の交通マナーや寄り道をしないなどの指導を徹底してほしい 授業の開始、終了時間は守れている 部活動でのあいさつはしっかりできているので、校内全体に広げてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動を継続・推進する 集会等の規範意識が育つ指導の実施 時間を守ることに關する呼び掛けの実施
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談を学期に一度行う(不登校生徒15人以内) 学校に来ることだけを目標にするのではなく、個々にあった対応を考えていく(チャレンジ的な登校、教育研究所、各機関等) 不登校生徒宅への家庭訪問を定期的に行い、保護者、本人との連携を密にする 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに全校生徒を対象に教育相談を行った 不登校生 1年生1人 2年生6人 3年生10人 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談部会を週に1回開き情報を共有(うち月に1回は教育研究所も参加) チャレンジ登校を希望する生徒には、そのときの状況に応じて柔軟に対応した(1年生1人 2年生2人) スクールカウンセラーを有効に活用し、不登校生徒及び、その傾向のある生徒の心の安定を図った 	<ul style="list-style-type: none"> 情緒不安定を修正するためにも、個人的カウンセリングをしてから、チャレンジ登校などの対応をしてはどうか 不登校をよしとする家庭の意識改革が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒が教室へ戻るステップとしてチャレンジ登校などの手立てをさらに検討していく 不登校生徒への連絡、家庭訪問を定期的に行っているが成果が見えにくい。 基本的生活習慣の育成に力を注ぐ
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動を月2回行う(自ら進んであいさつできる生徒の割合を80%) 定期的に委員会を行い、各委員会の活動の活性化を図る(4回以上開催) 各委員会や各学年の室長会と協力し、生徒が主体的に企画、運営をする(学校行事に対する満足度を70%以上) ヘルメット着用や交通安全の呼びかけを継続し、ヘルメットかぶろう運動にむけた取組を行う(交通事故5件以内) ひらっぴーを用いて呼びかけを行い、いじめ根絶に向けた活動を充実する 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動を月4回行った。(自ら進んであいさつできる生徒の割合が65%) 委員会の開催数は4回で、日常的な活動が活発な委員会が多い。 学校行事に対する満足度は85%以上 ヘルメットかぶろう運動は例年通り行えたが、交通委員会の活動が少ない 「いじめ根絶に向けた活動」は定期的な活動が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の日常活動が活発になった 行事に対する満足度は85%以上 進んであいさつできる生徒の割合が目標には達していないので、自分からあいさつができるように声をかけていく ヘルメットをかぶらない生徒やあごひもをしない生徒がいる。交通事故も6件あったので、交通指導や安全指導の徹底が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会自らがあいさつ運動を月4回行ったことは、生徒の自主性が育っていることが伺える あいさつをする生徒が多くなってきていることは我々も肌で感じる。あいさつする生徒も決まっているようにも感じる。しない生徒に対する啓蒙活動が必要である ヘルメット着用は自転車通学者の大半がしているように見受けられるが、家庭の協力が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」についての学級や学年での指導に取り組んでいく 交通委員会の日常的な活動を増やす 学校行事等で「ひらっぴー」について話しをし、シンボル化を図る
開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校、学年通信、ホームページ等により、学校の様子を積極的に発信する(学校通信は地域にも回覧する)(学校だより月1回、学年通信月3回、ホームページ毎週更新) 学校公開日を学期に一回は設定するなど、保護者が学校に来やすい環境を作る(体育祭、文化祭等の参観保護者数600人以上) 学校支援ボランティアを募り、活動を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> HPの毎週の更新はできなかった 行事への保護者の参加数は目標を超えた(のべ650人以上) 学校ボランティアに関してプランターへの花植え付け実施 図書館の放課後開放(毎月第1、第3火曜日) 部活動の補助、グラウンド整備(週1～3日) 	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新が個人に任されているため忙しい時期と重なると更新が難しい 学校行事には多くの方に参加してもらった。授業参観への参加者が増えるように、情報発信していく必要がある 図書館開放は定着してきたものの利用者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> HPの毎週更新は、かなりの労力が必要とされるので、抜本的な体制や方法の改善が必要である 学校公開デーの継続 	<ul style="list-style-type: none"> HPの役割分担等を行い、組織を作る 学校支援ボランティアの活動をさらに充実させていく 利用方法や開館の時間などを伝えていく 鈴鹿型コミュニティスクール活動を模索、実践する